

三月定例会

2月27日から3月22日までの24日間の会期で開催されました。
「平成29年度一般会計予算」をはじめ、「下諏訪町議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正」「副町長の選任について」など、34議案を審議しました。

こ
ん
に
ち
は

しもすわ 町議会 です

※ここに注目※

赤ちゃん増える? ……………3

住民満足度100%の予算とは ……4

津金裕美議員を偲んで ……………9

VOL.15 平成29年(2017)4月28日

編集／広報特別委員会 発行／下諏訪町議会

電話(0266)27-1111 FAX(0266)27-1237

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp/www/genre/1000100000096/index.html>



—がんばる!— 町消防団春季非常招集訓練

駅前広場・赤砂崎多目的グラウンドが完成

多目的グラウンドの使用料も決定



防災機能をもった「駅前広場」

3月定例会で総務経済常任委員会に付託された予算以外の議案は12議案で、すべて原案通りに可決しました。賛否が分かれた議案や注目された議案について質疑・討論の内容をお知らせします。

都市公園条例議案では

工事が終わり、供用開始となる「駅前広場」と、赤砂崎公園の「多目的グラウンド」を都市公園として条例に追加するものです。「多目的グラウンド」の使用料は、営利、営業目的の使用料を一日5万5千円とし、それ以外は1時間につき500円としています。算定根拠には、固定資産評価額を使用しています。

おんばしら館「よいさ」

年中無休に

より多くの方に来館していただくために、年中無休とし、入館料についても減免規定を設け、団体割引や身体障がい者等の割引も追加しました。開館以来の有料入館者は、2月末時点で2万143人で、159団体が訪れています。

働きながら育児や

介護のしやすい環境に

「地方公務員の育児休業等に関する法律」の一部が改正され、働きながら育児や介護のしやすい環境整備をするものです。

①養子縁組などについても育児休業等の対象の子とする規定を追加。

②3歳に満たない子のある職員について、災害その他避けることのできない事由に基づく臨時的な勤務以外にあっては、時間外勤務を免除する規定を新設。

③介護休暇の期間を、要介護ごとに連続する6か月の期間内として認めているのを、3回まで分割し休暇取得できるように改め、介護状態の変化にも対応。

④介護のために勤務しないことが相当と認められる場合には、連続3年までを承認できるとし、1日につき2

時間を超えない範囲で承認する規定を設け、「介護時間」の概念を取り入れる。

等の改正です。一定の要件を満たせば非常勤職員にも適用され、取得しやすくなります。これからは育児を取得する男性職員も増えるかもしれません。



税条例改正案で賛否両論

国の法改正に基づいた改正で賛成
消費税増税や法人税引き下げに反対

地方税法及び地方交付税の一部を改正する法律が平成28年11月に施行されたことによる改正です。消費税率10%引き上げが平成31年10月に先送りになったことにより、個人住民税における住宅ローン控除制度の適用期限を延長することや、先送りになった消費税を一旦改正前に戻し、改めて整備し直すものです。また、法人税を9・7%から6・0%に引き下げること盛りられています。

賛成討論

国の法改正に基づいた条例改正であり、国・県に沿って改正すべきだ。

反対討論

消費税率の10%対応は今やらなくても実施前までにやれば良い。10%には反対である。法人税引き下げは大企業に優位になるだけと思うので反対する。

埋蔵文化財センター4月29日にオープン 儀象堂改修工事のため入館料は暫定的に



オープンを控えた埋蔵文化財センター

生活文教常任委員会に付託された
予算以外の議案は6議案で、全議案
が全員一致で可決されました。主な
議案について報告します。

埋蔵文化財センター条例は、国の史
跡指定を受け「星ヶ塔黒曜石原産地遺
跡」を広く紹介するための展示・研究、
保存管理施設として、また星ヶ塔遺跡
を中心とした遺跡や町内の埋蔵文化財
に対する町民の学習の場として、更に
は文化の発展や観光振興に寄与する拠
点施設として新たに制定するものです。
質疑では、入館料の設定については
儀象堂の改修工事が始まるため、暫定
的な料金であり、改修終了後の一体的
な運営を考慮して、適正な入館料や減

免規定等を改めて検討すると説明があ
りました。製作中のジオラマはかなり
の迫力が感じられるとのこと、期待
されます。

討論では、工事期間中の安全対策や
観光客のニーズの把握にも努めて欲し
い。儀象堂もリニューアルされ、黒曜
石は歴史的にも全国的に注目されてい
る。町の目玉として期待するとして、
賛成討論がありました。

老人福祉センター

年中無休に

町内の各種団体に利用されている
「ホテル山王閣」が3月31日をもって
閉館するため、利用者の要望により、
老人福祉センターを年中無休とするも
のです。

質疑では、利用者数は実際の程度
になるかわからないが、要望があり年
中無休とし、開館の変更に伴う費用は
年間90万円程度であることが示されま
した。

討論では、高齢者の居場所が少なく
なると心配する声もあるので、住民要
望に応える事は大切なこと。少しでも
利用しやすくなっていくことを期待す
るなどの賛成討論がありました。

うれしい誤算

出産育児一時金 支給の増額補正 妊婦一般健診の受診者も見込上回る

一般会計補正予算（第8号）の中で、
母子衛生費の203万8千円の補正は、
妊婦一般健診の受診者が、当初見込み
の130人から152人に増加する見
込みになったものです。

国民健康保険特別会計補正予算（第
4号）の中での出産育児一時金の46
2万円は、当初18件の予定が29件に増
加する見込みであることから、増額補
正されました。なお、一件につき42万
円が支給されます。

埋蔵文化財センターの展示製作事業
については、年度をまたぐため約7千
万円を繰越明許にしました。

こども未来基金は、ふるさとまちづ
くり寄附金を81万円賜り増額補正する
もので、基金残高は830万2千円で
す。

負担金補助及び交付金の83万5千円
は、福祉施設の防犯対策強化事業に国
からの補助金の内示を受け「特別養護
老人ホーム・グレイスフル下諏訪」等
に補助するものです。



うれしい出産増

一般会計：ハードからソフトへ

- ・「高齢者なんでも相談室」を開設
- ・未満児保育・一時保育の拡充
- ・防災日本一めざし家庭用防災備蓄品斡旋
- ・減災設備・リフォーム補助金制度を拡充
- ・健康ポイントの導入

平成29年度一般会計

6年ぶりに70億円台に

平成29年度一般会計予算は、平成23年度以来6年ぶりに80億円を切る総額76億7千万（対前年比マイナス6・2％）の予算となりました。南小改築などの数年続いた大型建設事業が一段落し、新規ソフト事業に力を入れた予算編成です。

総務課では

地方交付税について、「まち・ひと・しごと創生事業費」として1兆円が措置されていること、また移住定住促進対策事業やホストタウン推進事業に係る経費が特別交付税の算定対象となることから、前年比3千万円を増額。小学生高学年の南知多交流事業は、50人を想定。日間賀島での生活体験を考えている。防災士は、平成27～28年度で51人取得し、29年度もチャレンジ事業に応募いただいており増員する。

税務課では

法人町民税では、日本電産サンキョー、中部電力、武藤工業が3本柱。今後は日亜化学も見込まれる。固定資産税の増収見込みは、日亜化学の建物分。たばこ税は、販売店の売り上げ量によって振り分けられ、町内で購入すると町への配分が増える。

住民環境課では

個人番号カードの発行状況は、交付枚数2230枚、申請件数2635件と少ないが県下で1位。駅東リサイクルステーションでの収集を拡大する。あざみ号のダイヤ改正は、公共交通検討委員会を設置し検討する。



ダイヤ改正が検討されるあざみ号

産業振興課では

地域おこし協力隊員報酬は、2人分で計上。結婚新生活支援事業補助金は、

24万円を限度に住宅の購入・賃貸費用などの補助に10人分を計上。テレワーククラブタウン構想等のプロジェクトを立ち上げる。減災設備・リフォーム補助事業は耐震シエルトや店舗併用住宅などにも拡大。家庭菜園は、240区画分の借上料を計上。サマーイルミネーションに関連して、770万円が計上されており、電球数は累計11万球となる。民公協働で進めたい。

建設水道課では

道路維持補修費では、住民要望に沿って1千万円増額した。職員で対応できる道路穴埋は、日常巡回と年2回の一斉パトロールにより対応している。道路新設改良費で、LED化による諏訪湖岸の街路灯の更新に向けた設計の実施などを計画する。

消防課では

子どもに好評の「消防ふれあい広場」は5年目となる。消防用ホースは、各分団に2本ずつ配備する。

教育こども課では

未満児保育では受入を拡充し、一時受入保育士の増員と保健師の配置。こども食堂、及び総合運動場管理棟プロジェクトを立ち上げ検討する。夏期巡回ラジオ体操を開催する。

特別会計：健全財政維持に向けて

- ・国保：脆弱な財政基盤 3,000万円法定外繰入
- ・温泉：ゆたん歩°南源湯の施設整備
- ・特老：県内唯一の公設公営施設の維持継続
- ・水道：計画的な施設更新や資金確保を
- ・下水道：管路施設の耐震化・雨水排水対策事業

健康福祉課では

健康ポイント事業は、健診や健康講座への参加者にポイントを付与し商品券等に還元。なんでも相談室は町内12か所で各2回実施予定。高齢者に限らず生活相談にも応じる。



地域おこし協力隊の拠点になる「mee mee center sumeba」(ミー ミー センター スメバ)

国民健康保険特別会計

当町の医療費は県内17番目に高い。症状が重症化してから医療機関へかかる割合が高いと考えられる。法定外繰入3千万円。平成30年度からは財政運営が県へ移行。

駐車場事業特別会計

料金改定の検討は、今後近隣駐車場を調査するなどして検討していきたい。

後期高齢者医療特別会計

28年度加入者数4127人。広域連合の基金残高は約10億円。

交通災害共済事業特別会計

加入者数が減少傾向にある。基金残高は5千5百万円。

温泉事業特別会計

口数については、1・7・8区で余剰がある。一般会計への繰出金は1億9千7百万円で、平成33年まで続く。

特養老人ホーム事業特別会計

ハイム天白への入所希望待機者は、下諏訪町で32人、岡谷市で19人、諏訪市で6人。施設介護サービス費の収入減は、介護報酬の引下げが大きい。

水道事業会計

水道事業企業債の残高は、11億9025万円である。配水管布設替え工事は山の神団地、新設は友之町駐車場裏などを計画。

下水道事業会計

御田町雨水排水対策事業3億2438万円など。老朽化した幹線施設の割合が高い市街地、国道20号、県道八島高原線など耐震・長寿命化を図る。

(単位：千円)

会 計 名		平成 29 年度	平成 28 年度	増 減 額	増 減 率 %
一般会計		7,670,000	8,180,000	△ 510,000	△ 6.2
国民健康保険特別会計		2,506,700	2,525,000	△ 18,300	△ 0.7
駐車場事業特別会計		7,000	7,800	△ 800	△ 10.3
後期高齢者医療特別会計		335,000	329,100	5,900	1.8
交通災害共済事業特別会計		10,600	11,500	△ 900	△ 7.8
温泉事業特別会計		442,000	400,000	42,000	10.5
特別養護老人ホーム事業特別会計		223,300	227,100	△ 3,800	△ 1.7
東山田財産区会計		1,600	1,300	300	23.1
水道事業会計	収益的支出	262,600	260,900	1,700	0.7
	資本的支出	203,300	269,900	△ 66,600	△ 24.7
下水道事業会計	収益的支出	586,200	589,200	△ 3,000	△ 0.5
	資本的支出	726,600	367,400	359,200	97.8

一目でわかる議決結果 3月定例会

議決結果

議案第1号	監査委員の選任について	同意(全員)
議案第2号	土地の取得について	可決(多数)
議案第3号	下諏訪町農業委員会の委員の定数を定める条例の制定について	可決(全員)
議案第4号	下諏訪町埋蔵文化財センター条例の制定について	可決(全員)
議案第5号	下諏訪町職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第6号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第7号	下諏訪町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第8号	下諏訪町一般職の職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第9号	下諏訪町税条例等の一部を改正する条例について	可決(多数)
議案第10号	下諏訪町老人福祉センター条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第11号	下諏訪町おんばしら館条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第12号	下諏訪町都市公園条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第13号	諏訪広域連合規約の変更について	可決(全員)
議案第14号	町道路線の認定について	可決(全員)
議案第15号	平成28年度下諏訪町一般会計補正予算(第8号)	可決(全員)
議案第16号	平成28年度下諏訪町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	可決(全員)
議案第17号	平成28年度下諏訪町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可決(全員)
議案第18号	平成28年度下諏訪町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第4号)	可決(全員)
議案第19号	平成28年度下諏訪町下水道事業会計補正予算(第1号)	可決(全員)
議案第20号	平成29年度下諏訪町一般会計予算	可決(全員)
議案第21号~27号	平成29年度下諏訪町特別会計予算(国民健康保険、駐車場事業、後期高齢者医療、交通災害共済事業、温泉事業、特別養護老人ホーム事業、東山田財産区)	可決(全員)
議案第28号~29号	平成29年度下諏訪町企業会計予算(水道事業、下水道事業)	可決(全員)
議案第30号	平成28年度下諏訪町一般会計補正予算(第9号)	可決(全員)
議案第31号	平成29年度下諏訪町一般会計補正予算(第1号)	可決(全員)
議案第32号	副町長の選任について	同意(全員)
議案第33号	固定資産評価員の選任について	同意(全員)
委員会提出議案第1号	下諏訪町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)

※主な議案の審査内容は、2~5Pをご覧ください。

陳情審査結果

平成29年陳情第1号	農業者戸別所得補償制度の復活をもとめる陳情	不採択(多数)
平成29年陳情第2号	日本政府が、国連での核兵器禁止条約交渉会議に参加し、条約実現に向け努力することを求める陳情	採 択(全員)

意見書案議決結果

平成29年意見書案第1号	農業者戸別所得補償制度の復活を求める意見書	否 決(多数)
平成29年意見書案第2号	日本政府が国連での核兵器禁止条約交渉会議に代表を参加させ、条約実現に向けて努力することを求める意見書	可 決(全員)
平成29年意見書案第3号	子ども・障がい者等の医療費窓口無料化の実現を求める意見書	可 決(全員)
平成29年意見書案第4号	組織犯罪処罰法改正案の国会提出に反対する意見書	否 決(多数)

3月定例会議案等賛否一覧

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ表示しています

議員名(議席順)	議決等結果	中村 奎司	宮 坂 徹	田 嶋 彰	林 元夫	青木 利子	河 西 猛	森 安夫	岩村 清司	金井 敬子	中村 光良	藤森 スマエ	小池 忠弘
議案番号等													
議案第2号	可 決(多数)	斜線	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
議案第9号	可 決(多数)	斜線	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×
平成29年陳情第1号	不採択(多数)	斜線	×	○	×	×	×	×	○	○	×	○	○
平成29年意見書案第1号	否 決(多数)	斜線	×	○	×	×	×	×	○	○	×	○	○
平成29年意見書案第4号	否 決(多数)	斜線	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○

採択に対する賛成者は「○」とし、反対者は「×」とします。議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。
可決に対する賛成者は「○」とし、反対者は「×」とします。議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。

陳情・意見書の審議結果

陳情第1号

陳情者 農民運動諏訪農民センター

農業者戸別所得補償制度の復活をもとめる陳情

米価が生産費を大きく下回る水準に下落しています。生産に対する費用と販売価格との差額を基本に交付する「農業者戸別所得補償制度」が平成25年度まで行われていましたが、平成26年度以降は「経営所得安定対策」に切り替わり、米への財政支援は半額に引き下げられました。そして、この制度も平成30年産米から廃止予定です。この陳情は、「農業者戸別所得補償制度」の復活を政府

に求める意見書提出を求めるものです。

稲作農家の経営を下支えし、日本の主食である「米」を守るべきとの賛成意見と、高齢者救済のためだけの戸別所得補償制度の復活は時代に即さず、技術革新による効率化と大規模化によるシステム作りやそのための補助制度の充実こそが必要との反対意見が出されました。

採決の結果、賛成少数で「不採択」となりました。



意見書案第1号

農業者戸別所得補償制度の復活を求める意見書

陳情第1号を受け、国に対して「農業者戸別所得補償制度」の復活を求める内容でしたが、賛成少数で否決されました。

陳情第2号

陳情者 原水爆禁止下諏訪町協議会

日本政府が、国連での核兵器禁止条約交渉会議に参加し、条約実現に向け努力することを求める陳情

核兵器廃絶は、被爆国日本だけでなく世界中の人々の願いです。国連は、今年3月と6～7月に「核兵器禁止条約交渉会議」を国連本部で開催します。本陳情は、世界唯一の被爆国としてその会議

に代表者を参加させ、条約実現に努力することを政府に求める意見書の提出を求めるものです。

全会一致で採択されました。



意見書案第2号

日本政府が国連での核兵器禁止条約交渉会議に代表を参加させ、条約実現に向けて努力することを求める意見書

陳情第2号を受け、その内容の意見書を政府に提出するものです。全会一致で可決されました。

意見書案第3号

子ども・障がい者等の医療費窓口無料化の実現を求める意見書

子ども・障がい者に対する福祉医療給付制度は、いったん窓口で医療費を支払い数か月後に口座に振り込まれる自動給付方式となっています。国が平成30年度から地方自治体が実施する子どもの窓口無料化に伴う国民健康保険国庫負担金のペナルティを、未就学児までを対象に廃止する方針を打

ち出したことから、県において医療費窓口無料化が検討されています。この意見書案は、早期の医療費窓口無料化実現、検討の場に当事者を参加させること、国民健康保険国庫負担金のペナルティ廃止を更に求めることを、県に要望するものです。

全会一致で可決されました。

意見書案第4号

組織犯罪処罰法改正案の国会提出に反対する意見書

政府が通常国会に提案する「組織犯罪処罰法改正案」には、「テロ等準備罪」が含まれます。本意見書案は、これを「共謀罪」と同主旨ととらえ、処罰条件に加えられた「準備行為」に限定がないこと、対象となる「組織的犯罪集団」の定義や適用犯罪の基準があいまいで一般市民や市民団体、労働

組合等も対象にされる可能性があること、住民同士の相互監視・「密告」社会を生み出す危険があること等を問題とし、憲法で保障された思想・信条、内心の自由を侵すものとする立場から、法案に反対の意見書を国に提出する内容です。

賛成少数で否決されました。

議会はこんなこともやっています

下諏訪町議会は、「開かれた議会」を目指し、議会報告会での懇談会や各種団体との懇談会を通して、みなさんの声を聴く会を実施しています。今年度もテーマ別懇談会を議会報告会で開催。向陽高生との懇談、商工会議所や青少年健全育成協議会との懇談会も行いました。

議会自ら条例改正

議会報告会の開催

各種団体との懇談会

若者との意見交換会

議会運営委員会の委員会提案により条例を改正

就任・退任時の重複支給を

日割り支給に改善

議員報酬額は、審議会の答申通り現行のままですが、議員報酬の規定の中に月の途中で就任や退任があつた場合でも日割りでの支給規定がないため、新旧それぞれ月額で支給することとなっており、重複して支給することになっています。

今回の改正は、他市町村の状況や世論を鑑みて、月の途中での退任や就任の際には、死亡した場合を除き、月額での支給を日割りでの支給に改めるものです。最終日の議会で全員一致で可決しました。

先日、生活文教常任委員会主催により、青少年健全育成協議会と懇談会を開催しました。議員も合わせて約30人で、活発な意見交換を行うことができました。また例年開催をして欲しいと要望がありました。

質疑内容や要望について主なものを報告します。(Q＝議会、A＝青少協)

Q 子ども達の行事への参加状況は。

A 学校の「地域行事

への参加」の呼びかけや、会長自らが声をかけたことも効果があった。小学生全体数が減少。親の判断で参加する子どももいる。小学生は御柱が6割、どんど焼きが7割、中学生は口コミ効

青少協と懇談

「安心の家」を

もっと増やして

果があり、高校生は長持ち参加が口コミで増えた。地区により対象学年が限られてしまうが、PTA活動は活発。SNSや不審者、危険をキーワードに警察の方をお呼びしてミニ集会をや

A Q

つたら参加が多かった。子どもたちがやりたいと思えるお祭りは楽しく参加は多い。何かを投げかけると効果的。SNSについて対策や問題は。中高生はSNSを知らないという周

出された要望

- ・インターネットが普及しているので町全体で子どもへの対策を。
- ・読み書かせは当町の特徴で誇っている。読書推進の町としてアピールを。
- ・下諏訪町の魅力をもっとPRして。夜間は人通りがなく危険なので「安心の家」をもっと分かりやすくして、数を増やして欲しい。

議会報告会

アンケート結果

次号6月定例会号に

詳報させていただきます。

ご参加ありがとうございました。

津金裕美議員を偲んで

明るく、細やかな気配りのムードメーカー

子どもを取り巻く安心・安全な環境に 熱心に取り組む

1月31日、津金裕美議員が急逝されました。突然の訃報は、私達議員にとって大きな衝撃であり、未だ深い悲しみから逃れられません。心から、ご冥福をお祈りします。

3月定例会冒頭に、議場にご家族をお招きし、追悼の言葉と黙祷を捧げました。



全国市町村交流レガッタ会場にて

津金議員は平成十六年十二月、初当選を果たされ、議員四期目。この間、生活文教常任委員会委員長、副議長、議会選出の農業委員他多数の役職を歴任され、二期目の議会選出監査委員、生活文教常任委員、湖北行政事務組合議員の現職でした。初当選後の平成十七年三月議会以降、定例会ごとの一般質問を欠かさず行い、その数は四十九回。

保育園・小学校・子育て支援センターなど子どもを取り巻く環境、ごみ処理、食の安全や健康づくり等を主に、熱心に取り組まれました。

長年の町議会議員としての仕事の評価され、平成二十七年六月には下諏訪町町政功労者表彰を、同年十月には長野県町村議会議長会自治功労者表彰を受賞されました。

3月定例会における

「追悼のことば」(一部抜粋)

生活文教常任委員長 青木利子

議員は元より、職員をはじめ町内外の皆さんから慕われていた裕美さん。あなたがそこにいるだけで華やかになり、笑いの耐えない輪が幾十にも広がりました。

当選後の一般質問で、「石けん」ひとつのテーマで60分フルに質問されたあなたに、皆が圧倒されたことが昨日のことのように想い出されます。議会選出の監査委員の2期目在任中でしたが、その手腕は見事でした。月例監査報告時などには、必ず職員の方々の慰労の言葉を述べられたとお聞きする度に、あなたの細やかな心遣いに感服しきりでした。また、あなたのボートに対する情熱は、誰にも真似できませんでした。

議会ボート監督として發揮された強いリーダーシップは、「チームしもすわ」としての一致団結や、男女ともに優勝という快挙に繋がりました。漕ぐ選手もコックスも全員女性議員で全国大会に出場したことも、誇らしい思い出です。

12年間、あなたとともに、議会活動ができたことを本当に光榮に思います。あなたのいなくなった分、私たち12人の議員が力を合わせて、町民の皆さんの福祉の向上のために尽くして参ります。これからは、天空から私たちを見守ってください。沢山の思い出とご指導に感謝し、御霊の安らかならんことをお祈りしながら、お別れの言葉と致します。

議会人事

津金議員逝去に伴う人事については、3月議会において、議会選出監査委員に田嶋彰議員、湖北行政事務組合議員に宮坂徹議員が決まりました。

ねばり強い一般質問

一般質問



3月定例会の一般質問は11人が質問に立ちました。質問時間は答弁も含めて1人60分で行います。

10p 小池忠弘 議員

「新年度予算への見解は」

11p 林 元夫 議員

「先進的教育は」

金井敬子 議員

「国保税の税率は」

12p 森 安夫 議員

「こども未来基金の活用は」

青木利子 議員

「女性職員の役職登用を」

13p 田嶋 彰 議員

「町内の空き家の現状は」

宮坂 徹 議員

「福祉避難所の追加指定を」

14p 岩村清司 議員

「合併に関する将来像は」

中村光良 議員

「未満児保育の保育士増員は」

15p 藤森スマエ 議員

「英語サマーキャンプ企画を」

河西 猛 議員

「埋蔵文化財センターの今後」

Q 新年度予算に

かける町長の見解は

A 住民満足度

100%実現



小池 忠弘

Q 5年間で10億円の道路整備予算を示したが、要望の強い生活道路整備、除雪対策などはどう改善されるのか。

A 町道の改修、交通安全設備はしっかりやる。生活道路の維持補修は昨年より1000万円増の9000万円予算化した。雪害対策マニュアルは毎年見直し、第一次除雪開始ではあざみ運行路の町屋敷線を加えて32路線とし、雪害対策本部設置前でも区の判断で除雪依頼を可能にしている。

Q 「防災意識日本一」を掲げたが、住宅耐震化をどう進めるか。

A 耐震化補助費を60万円から100万円に上げた。耐震シエルト設置にも補助金を出す。耐震化率90%を目指す。「緊急促進アクションプログラム」を策定中。各戸訪問などきめ細かく取り組んでいく。

儀象堂改修、今後の運営は

Q 改修工事の内容と今後の運営は。

A 約780

0万円で一部

外装工事、歴

史体験や町の

歴史を伝える

システムを考

えている。4月にプロポーザルを予

定。入館料は29年度は現状で、以降

はプロジェクトで検討する。



改修される儀象堂

新婚生活支援事業のあり方は

Q 新婚に限らず高齢者を含む町営住宅の乏しい町としての政策が必要。結婚祝い金を一考すべきでは。

A 若い世代に住んでもらうことが大事。高齢者住宅対策は必要と考える。相談窓口を設置するので要望を聞いていく。結婚祝い金は検討する。

平和教育の推進を

Q 戦争体験者が減っていく。平和教育をどう進めていくか。

A 中学生の広島訪問は継続し、戦没者追悼式で発表している。また、松代大本営や満蒙開拓団の見学を行っている。新年度も各学校ごとに検討し行う予定。

Q 先進的教育どうする

A 自ら考える力を付け 人間の感性を大切に



林 元夫

Q 新学習指導要領は、小学英語が教科になり、5年生から文法を学ぶ。各教科では、意見発表や討論を重視

した「主体的・対話的で深い学び」を導入。「プログラミング教育」を小学校で必修化する。所見と対応は。

A 新しい試みでなく、授業を改善し、質を高めること。授業のユニバーサルデザイン化を推進しており、子どもの側に立つ教師になることを期待。

Q インクルーシブ教育システム（障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み）の考え方は。

A 障がい者との交流授業は非常に意義で、信頼し合える環境が必要。障がいは個性だ。お互いの良さを認め合おう。養護学校などがあり、障がいのある生徒を受け入れやすい。

地域全体で考える。

Q 先進的教育をどうするか。

A 社会の変化を主体的に捉えらるるようにし、また自ら考える力を付けて、人間の感性を大切にしていく。

山王閣の今後は

Q 山王閣は、町民にとっても観光客にとっても影響が大きい。町の対策は。

A 大社とは情報交換もしており、要望もしていく。

国保税は上昇する

Q これ以上の法定外繰入は、若者が多く加入する社会保険との整合性が取れなくなる。平成30年の県組織

で、当初予算で計上していた一般会計からの繰り入れ3千万円を投入するが、国への交付金返納が約2千万円と見込まれるため、残りは1千万円余。繰越金残高は約1800円と、ほぼゼロに近い。大変厳しい財政状況である。

Q 広域化に向けて県から示された当町の保険料率は、どうだったのか。町からは、どんな意見をあげたか。

A 現在保険料率の算定がやり直されている状況。示されるのは来年度8月頃の見込み。町としては「急激な保険料引き上げにならないように」と、激変緩和策を強く求めている。

Q 来年度予算と国保税の見通しは。来年度も、一般会計からの法定

に移管される影響は。

A 医療費と所得水準により算定されるため、国保税は上昇する。

6年間我慢してきただが上げざるを得ない。

国保特別会計の経年的推移

単位千円

	25年	27年	28年(見込)
平均国保税(一人当たり)	82	79	81
決算額	2,275,203	2,582,309	2,588,824
赤字・黒字額(単年度)	△19,567	△8,084	△45,119
法定繰入額	85,832	117,008	160,579
法定外繰入	0	0	30,000
基金取崩額	48,000	0	13,300
基金残高	13,307	13,324	24
繰入合計額	133,832	117,008	203,879

各種応援事業の拡充を

Q 消防団員応援事業、高齢者応援カード事業、子育て応援カード事業を拡充し、利用促進を図るべき。更に、町内事業所に協力を求める働きかけを進めるべき。

A それぞれの事業に、協賛していただける事業所を増やす努力をしていきたい。



町内企業の協力を得る「子育て応援」カード

A 引き上げ

止む無しの状況



金井 敬子

Q 今でも高い国保税

税率引き上げは避けて

Q 国民健康保険の基金、繰越金の現状は。
A 現在基金残高は、2万3719円

Q こども未来基金の活用は

A 校長裁量で運用



森 安夫

Q こども未来基金の子ども貧困問題への活用をどう考えるか。

A 制度でなく、校長裁量といった形での「思い」を大切にしたい利用を

Q 女性を役職に

登用を！

A 女性初の

課長が誕生か



青木 利子

Q 諏訪広域の女性研修の内容は。参加は平成27・28年とも4人。感想では、グループ討議などから今後の

考えたい。

赤砂崎にクロカントリーコースを

Q 赤砂崎に整備した多目的グラウンドの外周を、陸上の長距離走練習のためのクロスカントリーコースにしたい。

A 多目的グラウンドの外周は丘を含め450メートルで起伏を利用したトレイル



完成した多目的グラウンド

キャリアアップに対する意識改革が図れ、先を見据えた対応や論理的思考を心掛けるようになった。弱者フォローなど柔らかな対応の業務遂行を理解。
Q 新年度の女性の登用については。
A 性差無く努力に応じて登用してきたが今回も変わらない。ここで半分の課長が退職するので、可能性は高い。

こども食堂で一緒に食べよう！

Q こども食堂の進め方は。
A 子どもが一人で食事をしないといけない家庭があるのは事実。その子たちを含めこども食堂を開設したい。行政だけではできないので民間

ニングも可能。ヘリポート広場の外周を含めると650メートル確保できる。安全に利用してほしい。

Q 国際ボート連盟総会会場での、東京オリンピック・パラリンピックのボート合宿誘致活動の成果は。

A 参加62ヶ国中40ヶ国に資料を渡し、20ヶ国と名刺交換もできた。米国、伊国などとの折衝もでき、成果のあるPR活動が出来た。

産業振興策の29年度予算は

Q 工業振興については、次年度もものづくり支援センターへの期待が大きい。

A 新体制のもと情報発信、商品開

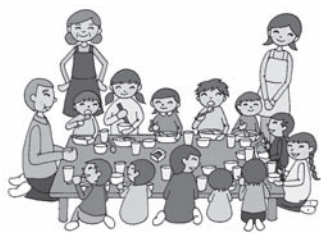
に協力もらい進める。4月から早めに募集して立ち上げる。

Q 募集の対象は。

A 場所を提供でき、担っていただけの方や先進的に活動しているNPOなど。

Q こども食堂と居場所づくりは一緒か。

A 別々。子どもの居場所は線路下に検討中のふれあいセンターを考えているが、29年度中の開設は難しい。



発、人材育成や受注強化など数値目標を持って取り組む。

ものづくり支援センターは星が丘労災リハビリセンター跡地に移しクラフトタウン構想の具体化を図る。

Q 平成29年度予算で一番手薄なのが産業振興策だと思う。特に農林水産業については予算が年々減少傾向にある。新しい視点やアイデアでの取り組みが大切。

A 観光、工業や商業も含めて過去に十分に力を入れてきた。農業は厳しさが続くが、守り、食べていける農業にしないといけない。諏訪湖は町づくりの観点で県も取り組んでおり協力していく。林業は林道整備が進んだ。

学校だよりが結ぶ学校と地域

Q 学校だより回覧の効果は。

A 4小中学校の地域の皆さんに関心を持ってもらうのがねらい。地域との連携が深まり、地域行事に参加する子どもたちが増えた。

Q 自己評価アンケート結果は。

A 子どもたちは「学校は分かりやすい、楽しい」と9割が回答。教師は「子どもたちの発言で展開する授業にしたい。」と語る。

Q 新年度の方針は。

A 真摯な気持ちで子どもや保護者に寄り添っていく学校にしたい。

Q 町内の空き家の現状は

A 空き家の有効活用を



田嶋 彰

Q 町内の空き家の現状把握はどうなっているか。

A 平成25年の調査では278件の空き家があった。このうち所有者の

Q 町の東側にも福祉

避難所の追加指定を

A 福祉機能持つ

避難所を検討



宮坂 徹

Q 議会報告会の分科会で、「自主防災会組織が機能しない」との意見が出された。新年度事業にある防災計画見直しの内容は。

同意を得られた104件について実態を調べたところ、危険8件、構造上の問題あり37件、問題なし59件だった。補強すれば有効活用できるものは31件あったが、調査以降も空き家は増加しているものと思われる。

Q 今後の方向性は。

A 特別措置法に基づき、住民環境課にワンストップ窓口を設けて対応し、内容に応じて担当課で連携している。倒壊関係は建設水道課、活用は産業振興課、草木の繁茂は住民環境課。空き家の機能不全防止にシルバー人材センターでは新年度、建物の見守りなどをする業務を行う。町ホームページなどで周知する。

A 先行して見直しを希望する区・町内会をモデル地区として、誕生した防災士有資格者を中核に、どのように位置づけ、どこを担ってもらかなど、一緒に考えていきたい。

Q 新年度事業「家庭用災害備蓄品普及促進事業」の内容は。

A 定価9000円弱のセットを大量発注と町の補助で、1セット3000円で頒布したい。バッグに1人分の水と食料3日分を詰める。4月中に希望を把握、6月中の配布を予定する。

Q 地域コミュニティとの連携について、生活弱者の把握ができるよう、情報共有のために連絡会議を開催してはどうか。

空き家バンクの活用

Q 空き家情報バンクの活用状況は。

A 平成21年より実施している空き家情報バンクでは実施当初より113件の空き家が登録され、196人が利用登録を行っている。空き家情報バンクを通じたものの他、一般の不動産業者などによる成約を含め延べ67件が成約となっている。



町内で増えている空き家

A 自主防災組織、計画のなかで、自助共助の観点から情報共有を図ってほしい。行政で全てはできない。各地区に担当職員を配置しているの

で、要望などがあれば検討もしたい。

Q 現在指定されている福祉避難所は3ヶ所だが、すべて町の西側に偏っている。町の東側にも指定できないか。

A 町保健センターを新たに指定した。過去の事例か



福祉避難所に追加指定の保健センター

活用希望者に比べ、登録物件数が少ない事が課題である。

取り壊し費用の補助

Q 空き家所有者が取り壊しの必要性を感じても、経済的、相続等の問題で取り壊しが進まない場合があるが、それへの対応は。

A 取り壊しに関する相談に関しては、住民環境課が窓口となり関連各課が連携を取って対応している。また、倒壊の恐れのある物件については取り壊しに関する相談も受けており、解体費用の見積り、弁護士への相談を含め、安全確保のための話し合いを行うなど対応をしている。

ら、要介護者等で家族と一緒に居たいなどの要望もあることから、通常の避難所に必要な機能を備え、人材を養成する方法もあることから、新たな発想で福祉避難所のあり方を考えていきたい。

新たな観光振興計画策定事業は

A 初版の振興計画の更新版と位置付け、観光関係者の目線だけでなく、商・工・農・移住者等多分野の視点を加えたものとし、広域観光振興調査報告、各種アンケート調査、町内旅館の旅客動向調査、町独自の観光消費額調査などを加え、新たな事業展開の検討材料としていきたい。

Q 合併に関しての 将来像は

A 地域コミュニティ が大切



岩村 清司

Q 昨年11月20日町長選時にLCVが出口調査を行った事はご存知か。
A 知っている。
Q 昨年暮れ28日～31日まで計10回、

LCVが特別番組で合併問題を放映された。町長は、ご覧になられたか？

A 見ていない。

Q その報道の中で出口調査のアンケートは、町内9ヶ所の投票所で有権者の3%、567人からの回答を得た。結果は、

- ① できるところからすべき 55%
- ② 6市町村同時にすべき 13%
- ③ やるべきでない 11%
- ④ わからない 22%

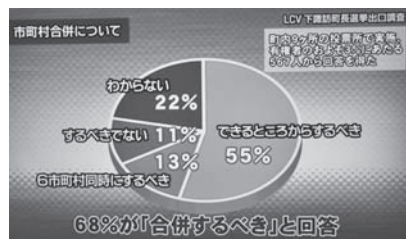
68%の町民が合併すべきと回答。

驚くべき結果だった。町民の民意を盛り上げて欲しいが。

A 重く受け止める。元々岡谷・下諏訪は賛成していた。下諏訪だけで

は駄目。平成の大合併は行政が主導して失敗。自ら動く計画は無い。

6市町村連携については、都度協議していく。



LCV出口調査結果

住所表示の変更を

Q 住居表示に関して、「社から東山田に戻して欲しい」「全町において同じ様に町名を入れてほしい」等の要望が聞こえる。

Q 未満児保育で保育士 増員の要因は何か

A 手がかかるので 拡充図る



中村 光良

Q 未満児保育への対応で、保育士2名増員の要因はどこにあるか。
A 3歳児以上は20～30人に対し保育士1人だが、未満児は手がかかる。

平成26年度64人、27年度88人、28年度は88人、来年度は97人。特に0・1歳児の増加が見込まれているため増員を決めた。一時保育の保育士はさくら保育園に配置する予定である。

Q 保育園への保健師の配置について何か構想をもっているか。

A 3園の距離も考慮して

さくら保育園への配置が良いと思う。くまなく巡回して日常のケア、視力検査の測定等さ



未満児が増加中の町内保育園

プレミアムフライデーへの対応

Q プレミアムフライデーについて町の取り組みと、商店、サービス業などでの活動状況はどうだったか。

A 庁内では、業務が月末に集中する職場もある。現時点では特化した取り組みは考えていないが、適切な

さまざまな業務に携わってもらう。保健センターとの連携も必要不可欠と考える。

Q ふれあいセンター「ぼけっと」への巡回は、どのようなものか。

A 「ぼけっと」にも巡回してもらう。子どもの健康や栄養状態の把握、体調不良のケア、各種健診の計画策定などにもあたってもらう。

いろいろな全国のお諏訪さま

Q 全国で8000社といわれる末社さんをお呼びして大イベントを開催することが出来ないか。

1万人集結していただけとしたらイベント会場はどの様にしたら良いか。宿泊は。このイベントを考えるだけでワクワクしてこないか。宿泊は、諏訪の氏子の家に民泊（ホームステイ）。会場は、東洋バルヴ跡地に1万人収容の国営・県営での施設を誘致すること。そのためには岡谷市・諏訪市・下諏訪町の合併は必要不可欠。民意の盛り上げを如何にすべきか。

マイナンバーの取り扱い

Q マイナンバー制度が施行され、業務が変わるとその都度ナンバーの記入や写しを求められる。準備段階で情報漏洩の危惧が議論された。漏洩の不安はないか。

A 法律で定められた業務で、法律で定められた体制で管理運営されている。不安はないと考えている。銀行等の暗証番号とマイナンバーは性格が違うことを理解されたい。

Q 英語のまちで英語

サマーキャンプ企画を

A 提案として

検討していく



藤森 スマエ

Q 英語教育に関してイタリアからの視察団の評価は。保育園の「英語あそび」の成果は。

A 保育園から中学までの英語授業

をみてもらい、「授業が素晴らしい」「参考にしたい」「また来町したい」との感想。保育園の「英語あそび」は年中組まで拡大。園児は、「英語あそびが楽しい」と

積極的な興味を示している。

Q 英語のまち下諏訪をアピールするために、都会の親子に発信し、空き家に宿泊し交流体験する「イ



イタリアからの視察団が町内小学校、保育園を訪問

Q 旧防災リハビリ

センター跡地の活用は

A ものづくり

センターの移設



河西 猛

Q 町が、起業創業支援拠点施設の整備として、取得した旧防災リハビリテーション跡地の活用は。今後の進め方はどうか。

A 「しごと創生拠点」としての活用を考える中で、商工会議所や産業界移住促進関係者を加えた、民公協働のプロジェクトを立ち上げ、効果的な活用を考えていく。機能を充実させるために、ものづくり支援センターの移設も検討し地域コミュニティの拠点にもなればと考える。

埋蔵文化財センターの進捗

Q 埋蔵文化財センターの進捗状況と、オープン時のイベントは。

A ゴールデンウィークには全てが整うので、4月29日に正式開館する。春恒例の三角八丁が開かれる4月22日から27日はプレオープン期間として、隣接の儀象堂と合わせて無料開

ングリッシュ・サマーキャンプ」を企画したかどうか。

A 子ども達が英語に親しんでいることは今後も大いに期待できる。提案は面白い発想。行政だけではできないと思うが、検討していきたい。

学校給食費無料化の検討を

Q 子どもの貧困問題に対する基本的な姿勢は。また、給食費の無料化はできないか。

A 貧困には、経済的だけでなく、精神的貧困もある。いかに行政や地域が手助けできるか考えないといけない。子ども未来基金はそのために設けた。無料化は、多額な財政措置が必要で、むずかしい。国の動向を

放するが、プレ期間には全館整備が間に合わない可能性もある。

Q 中山道について。「守る会」の存在は。

A 会による補修や観光客対応に感謝している。今後も必要な資機材を提供する等、要望を聞きながら予算措置など協力していきたい。

Q 中山道の史跡指定についての見解は。

A 文化



完成間近の埋蔵文化財センター

踏まえながら、検討する。

Q こども食堂の進め方は。

A 4月の早い時期に、プロジェクトを立ち上げて検討してもらう。下諏訪らしい形で構築していく。地域の協力が必要。開設する声があれば、未来基金をだしていく。

Q 就学援助制度の入学前支給の徹底を。また、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費を含め、平成29年度国予算で入学準備金の補助単価が二倍になったが、町でも適用して。

A 今回入学前支給は4件。毎年4月に全児童を通じてお知らせを配布。家庭訪問時にも知らせている。年度途中の申請も可。生徒会費など3項目は無理。支給額は国の定めに沿う。

庁、土地所有者と協議を進めていきたい。

子ども医療費無料化の見直しは

Q 町の現状は。

A 乳幼児等医療費給付金は、18歳まで対象を拡大し、入院時の食費助成も行っている。食費助成は県内で3町村のみで、先進的な事業。

Q 今後、国は未就学児までの窓口無料化に対する国保ペナルティを廃止する方向。町の考えは。

A 国の考えを受け、県は検討委員会、どの年齢まで窓口無料化を上乗せするかを議論中。県による事業拡大や財政措置に期待をしており、県の動向をみて、町の方角を定める。

議長のつづやき

ちょいと 一休み



議長 中村 奎司

三月議会も終了し、私の議長のつづやきも最終回となりました。ともすれば、議会の堅くなりがちな記事の中で少しとばけた内容にしてみたい、議会の出来事を肩のこらない切り口で皆さんに伝えたい、そんな思いで書いてみました。そう、ちょいと一休みです。おかげさまで何人もの方から、議長ありやあおもしろーぜ との感想をいただいたこともあり、張り切って書かせていただきました。

先日、お隣長和町のブランシュ高山へ娘・孫娘とスキーに行ってきました。5年振り(ウェアに5年前のリフト券が入っていました)のスキーということであつと心配しましたが、雪質もよくイメージ



本当に孫娘です!!

その上のゴールドで大幅割引、ラッキー。来年もやるぞ、議員は体力だ！議会報告会については簡単に本文でお知らせしました。その中で、何人かの移住者から下諏訪の良さを言っていたいただきましたが、問題は町の人がその良さを認識していないということです。自分よい町だと思わなくて、どうして他所の方に移住して、と言えますか。自分の子供に学校が終わったら故郷に戻ってこい、と言わないのに、よその人に来てくれ、はないでしょう。そんな気持ちで一杯でした。(すみません、私もその一人です)子供にも、孫にも胸を張ってよい町だと言える、そんなまちづくりを一緒にしませんか、力を合わせて。

議会と私

議会報告会から思うこと



下諏訪町消防団
女性消防隊長
両角真由美

毎年、女性消防団の新年総会に女性議員の皆さんをお招きしております。その席上「議会報告会にも是非！」というお話をいただき、それならばと今年の報告会に行ってみました。

して多いのか少ないのか…。報告会の中にはテーマ別懇談会もあり、私が日々思っていることや、町への希望を伝えられる良い機会となりました。議会報告会、この議会だよりもそうですが、議員の皆さんは、議会について少しでも私たち町民に知ってもらおうとご尽力くださっています。一方、私は議会に関心を寄せているだろうか？住民の代表として議員さんを町政に送り出しているのに、任せつきりになってはいないだろうか？と考えました。

私たち自らが自ら選んでいる『おらほの議員』です。求めたり任せたりではなく、共に考え共に動くことが大切です。より身近で開かれた議会にするために、私も共に考え共に動いていこうと思います。

編集後記

広報特別委員会のメンバー4人の任期は、この15号で終了になります。振り返ってみると、担当した2年間で、議会便りクリニックを受けたり、先進議会への視察研修を行いながら、そこで学んだことを活かしていろいろな工夫を試みしました。写真を数多く取り入れ、一般質問ページを

上下割りから左右割りに変えてみました。各ページにインデックスを付けたのもそのひとつです。読んでもらえるための工夫は、これでよいというのではなく、常にその努力を怠らないことだと思っています。(T・M)

広報特別委員会
委員長 金井 敬子
副委員長 林 元夫
委員 宮坂 徹
委員 森 安夫